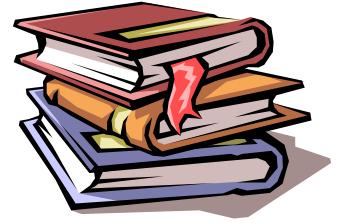


NEWS LETTER



NO.7 2001.6.30

にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本（甲山国際文科学館内）

〒658-0003 神戸市東灘区本山北町 3-2-10

TEL：078-453-5941

紫 陽花の清々しい美しさが、梅雨空のうっとうしさを吹き飛ばしてくれるようです。

3 回目の新しい年度を迎えた「にほんごひろば岡本」にも爽やかな新風が吹き込んでいます。最近、神戸松蔭女子大生をはじめとする若い人たちのボランティア登録が増えました。学習者の方も、国際結婚して神戸で新生活をスタートさせた人、習っている日本語を使ってもっと会話をしたいという日本語学校の青年たち、貴重な休日を利用したり仕事を終えて駆けつけて来る日系南米の人たちや中国帰国者、日本語を使う機会に恵まれない留学生・語学学校の先生・研究員など新しい仲間が増えました。新鮮な驚きや戸惑いの中にも、出会いの喜びや異文化・異世代交流の楽しさを日々満喫できる「にほんごひろば岡本」です。再登録してさらに日本語に磨きをかけている学習者も多くなりました。その人たちに協力してもらって、学習者が積極的に運営にも参加できるような「にほんごひろば岡本」にしたいと思っています。

6 月 30 日現在、支援者 44 名、学習者 43 名です。内訳は資料をご覧ください。

● CONTENTS ●

【特別企画】

OG たちの活躍

こんなところで頑張っています.....6

【フォトレポート】

2001.4.7 お花見交流会盛大に開催

春です 花です 桜です.....7



連 載

学習者の紹介.....2

支援者の紹介.....3

学習者のひろば.....5

総会・ワークショップレポート.....8

学 習 者 紹 介

◆モニカさん (女性) メキシコ出身

今ではすっかり日本人 紋仁香さん

昨年の 10 月 29 日にメキシコのメリダから 18 時間かけて日本にやって来たモニカさん。来たときには、モニカ・アルハンドラ・プリド・サンチェスという立派な(?) メキシコ女性だったのが、スペイン



大好きだいちちゃんこと吉岡大輔氏と結婚し、今では通称吉岡紋仁香さんに変身しています。

来日時には全然日本語が分からなくて、「ぜーんぜんわかりません」だけが彼女の得意な日本語でした。今ではかなり話せるようになり、複雑

な話になった時の「英語でいいですか」が決まり文句になりました。愛のなせる技か、努力の結果か、モニカの日本語の上達は素晴らしく、もっとうまくなった時の彼女の口ぐせがどんなものになるのか、とても楽しみです。

メキシコ人にとっての日本は、本当に遠い遙かな異国です。来日するまでは想像もつかなかったけれども、今ではすっかり日本の生活になじみ、だいちちゃんの毎日のお弁当作り、自転車での買い物と立派に日本の主婦の仲間入りをしています。

彼女は日本食も大好きで、おもち以外は何でも OK だけれども、やはり辛いものは特に好きなようです。レストランで注文したオムライスにチリソースを一瓶使いそうな勢いで振りかける姿に、ああ、モニカもやはりメキシコ人なんだなあと、実感する私です。
(松見和代)

◆マイケルさん (男性) カナダ出身

おじぎも上手な英会話教師

毎週月曜日一緒に勉強しているマイケル・ウィルキンズさんは、来日してから 1 年数カ月、長身で青い目のカナダ人です。

にほんごひろば

岡本ハンサムボー

イリストの上位

にいつもいるとか、

いないとか。帰り

際には「サンキュ



ー」ではなく、必ず「どうもありがとう」と日本語で言うマイケルさん。上半身をちょっと前に傾け日本風の挨拶を試みる彼の姿にはちょっとぎこちなさが漂っているのですが、とっても好感が持てます。

マイケルさんの日本語に対する情熱は、ともすれば避けたくなる日本語学習の複雑なポイントに出くわした時に特に顕著です。例えば、一斤、一隻などのカウンターのレッスンで、「これは難しいですね」と言うと、彼はにこやかな表情を決して崩さず、「うん」とうなずいて、「でも、しょうがない」日本語を在りのままに受け入れようという姿勢です。

常に優しい雰囲気のがさらに優しい表情になり、目を輝かせたことがありました。

マイケルさんが英会話教師を務めるタイムイングリッシュスクールの話になり、彼が「たくさんの小学生を教えています。彼らはうるさい」と言うので、やんちゃな小学生に囲まれてタジタジとなっているマイケルさんを想像して、「時には子供達を怒らないといけないですね」と言うと、彼はニコニコしながら “Yeah, but I’m not very good at it”

これからも素敵なマイケルさんと楽しく勉強を続けていきたいです。
(曲渕美恵子)

◆胡 琦華さん (女性) 中国出身

金魚すくいも体験しました

3 月から、上海出身の胡琦華さんと勉強を始めました。「日本語表現文型 500」、「日本語中級読解入門」(アルク) と「なめらか日本語会話」の 3 冊をその日の状況にあわせて、組み合わせながら進めています。

初めて会った時は、少し緊張気味でしたが、2 回、

3 回と顔を合わせるうちに、話題もいろんな方面に広がるようになりました。茅台酒、中国茶、餃子、万里の長城や紫禁城など、私も中国通になれるかな?と思うほどです。



神戸商船大学
大学院で海洋機
械学の勉強をし
ている胡さんは
勉強熱心で、宿
題も忘れること
なく、時には「ウ

ーン」と私をうならせるようないい例文を作ってくるので、感心させられます。大学院の授業は英語で、教室ではコンピューターに向かっていることが多く、日本語を使うチャンスがないとのこと。せっかく覚えた日本語を生かせないのが残念です。

同年代-25、6歳-の日本人の友達求む!

4月のお花見では、「金魚すくい」は初めてで・・・」と言いながら、4、5匹すくい、支援者がすくった金魚とあわせて、18匹を寮へ持ち帰りました。中国では、金魚は赤いので、人気があるそうでとても嬉しそうでしたが、翌週会ったときには、「8匹死にました。」と悲しそうでした。この日は、同年代の支援者も多く、楽しそうでした。金閣寺、大阪城、USJ (勉強のため建築中を見学) などには行ったそうですが、あまり遊びに行くチャンスはないとのこと。1年半の留学生活の間に近場にも出かけ、日本語をたくさん使って欲しいと思います。(天羽修江)

◆ジュリアンさん (男性) フランス出身

熱意 200%のシャイな青年です

「青年」という言葉を聞くと私は、シャイでありながら心に秘めた熱い思いをもった人を思い浮かべるが、まさしくその通りのキャラクターのジュリアン (22 歳、フランス ブルターニュ出身)。

にほんごひろば岡本で週一日、プライベートレッスンで週二日彼と日本語の勉強をしている。初めは青年のシャイな部分を見せていた彼だが、毎週回を重ねる毎に心の中に熱いものが燃え滾っている人物

であることに気づかされていく。彼の日本語に対する情熱はどこから来るのか



ということに疑問をもって尋ねた私に、「そんなこと分からないし、考えたこともない。ただ日本語に興味があるから。この言葉の意味が知りたいし、分かって使いたいから教えてくれ」と私に言うだけの彼。そんな彼だから、構造シラバスはもちろん無理で、だからといって場面シラバスでも機能シラバスの教科書でも長続きせず、「そうじゃない。僕の知りたいことは!」という顔をする。初めはそんな彼と自分の勉強の仕方の違いに戸惑い、しばしばお互いこぶしを握ることもあったが、言葉への興味とは実際こんなものであり、そこがすべてのような気がし、彼の望むような形の勉強となっている。そんな彼は日本でのインターンシップ (企業での社会人体験) を半年延長し、来年は日本の大学に進学することを決意したとのこと、ますます日本語に磨きをかけたいと質問の量も質も増していくことでしょう。うーん。がんばらねば。(山下圭子)

支援者紹介

★副田真里子さん



**情熱いっぱい
O型です**

本当に家の中だけの話ですが、仕切りたがりやで、何でも自分でやらないと気がすまない

内弁慶な O 型です。何かを学ぶことが好きで、昔はずいぶん自分に投資をしたものですが、今は 18 歳と 16 歳の金食い虫に身を削られ、働くばかり。ストレスも頂点に達した昨年、偶然目にした格安日

本語学習支援者養成講座に「これぞ私の生涯学習だ!」とすぐ応募。そして「経験がなくても、人生経験と情熱があれば大丈夫」という西村さんの言葉に魅せられ、はや半年になります。まだ教えることに未熟な私ですが、聡明な台湾出身の蔡さんは、懲りずについてきてくれます。本当にありがたい。私もそんな彼女のために、フルタイムの仕事と完璧な家事?で疲れた身体と頭をなだめながら、予習をしますが、日本語の奥深さにはため息が出ます。

蔡さんは今年の1月に結婚したばかりです。ある日の「～しておきます」文型練習のやりとりを紹介します。

私「パーティーが終わりました。後片付けをしましょうか」

蔡(間髪いれずに)「そのままにしておいてください」

私「蔡さん、もしかしてO型?」

蔡「はい」

私「やっぱり。もしかしてご主人はB型?」

蔡「はい、そうです」

私「それは素晴らしい。あなたの結婚生活はバラ色です」

さて、私は将来、B型の主人と東南アジアでシニアボランティアをするのが夢です。

★関野聡美さん

学習者のよき理解者を目指して

みなさん、初めまして。私は去年の夏ごろから「にほんごひろば岡本」のメンバーの一人として活動している関野といいます。知り合いの方から佐古田さんを紹介して頂き、今に至ります。

もともと言葉を「学ぶ」事が好きだったので、今度は逆の立場に立ってみたいという単純な動機から活動が始まりました。最初の頃は予想さえしない質問を学習者からガツンとぶつけられ、「私は日本人なのにどうして答えられないのだろう・・・」とショックを受ける反面、「これを学習者に見破られて



はいけない!」と冷や汗をタラタラかきながら、どうにかこうにか平常心を保とうと必死でした。

この様な状況の中で、私に日本語の再認識のきっかけを与えてくれたのが、今年の3～5月まで行われた日本語学習支援者養成講座でした。この講座を受ける事で何度、目からうろこが落ちたことでしょう!毎回の授業では学習者から見た日本語を知る事ができましたし、実習を経験する事で学生時代に自分が受けていた授業をする為に先生方がどれほどしんどい思いをして準備をされていたのか、学生の時の私を反省すると同時に、教える側とはどうあるべきにという私にとっては全く新しい世界の一部を知る事が出来ました。

言葉が好きだからという軽いノリで始めてしまった私ですが、これから学習者と共に日本語を、その魅力を学び、教える事ができるような支援者、そして、学習者の良き理解者を目指して頑張りたいと思います。

★井畑真理子さん

コンセプトは楽しく

NEWS LETTER の編集後記で毎回勝手なことを言っていますM・Iです。

日本語教育のボランティアに興味を持ち始めた頃、ひろばから「NEWS LETTER」の編集・制作をやってみませんかと声を掛けていただきました。編集の経験は少しありましたが、DTP(コンピュータによる編集)は全くの素人でした。ですからドキドキ半分ワクワク半分のスタートです。最初はDTPの参考書と首っ引きの作業でした。

そんなNEWS LETTERも今回でNO.7を発行できました。私に関わらせていただいたのは、NO.3からですが、写真大好きな西村佳子さんや素敵なイラストを描いて下さる福原香織さんなどの心強い味方を得て楽しく紙面づくりをしています。

NO.6の発行の後、たまたまひろばにお邪魔することがありました。何人かの支援者、学習者の方が、



楽しそうに NEWS LETTER をめくっておられたのを見て、おもわず胸の前で小さくガッツポーズをとっていました。あーよかったと。

学習者と直接の関わりはありませんが、こんな形のボランティアもあるんだなと、思っています。

みなさんに心待ちにしていただけのような NEWS LETTER を目指しているのですが、もしかして、一番楽しんでいるのは、私自身かもしれません。これからどんな展開をしていくのか、分かりませんが、どうぞ末永くお付き合いください。

学習者のひろば

「母国の素晴らしさを伝えていきます」

ヴェロニカ 神里

私は、ペルー リマ生まれの日系人です。

1991年の5月16日に来日しました。10年日本に住んでいます。日本

に来ることは、難しい決心でした。家族や友人と離れることや大学での勉強を中断することなど国を出るためには、いろいろ考えなければなりませんでした。

最初の一年目が大変でした。文化の違いや日本の習慣に適応しなければなりませんでした。また、コミュニケーションのために日本語や日本料理などを勉強しました。最初の仕事は、たくさんの日本人と一緒に働きました。そこで、たくさんのことを学びました。日本語もはじめて、そこで勉強したので、職場はまるで学校のような所でした。最初の数年は、私が働いていた工場が所有しているアパートで生活をしていました。そこで、他のペルー人と初めて知り合いになりました。はじめは、共同生活することは、少し難しかったのですが、時間がたつにつれて、慣れていきました。いつもみんなで、クリスマスやお誕生日のお祝いをしたり、楽しいこと悲しいことを分かち合いました。



決して忘れられない出来事は、1995年1月17日の神戸の地震です。つらい経験でしたが、人間について多くを教えられました。出身地、言語、宗教、社会的地位などは、重要ではなく、大切なのは、共有し、必要な人々を手助けすることだと分かりました。時間が過ぎてゆき、その間、たくさんの人たちと知り合いになりました。また、外国に行く機会もありました。そして、いつもラテンの人々の小さな社会に出会いました。ラテン人は、一生懸命に働き、努力して前進しようとしています。そして、自分たちのルーツを忘れない為に、母国の文化を伝えようとしています。それで、私も友人と一緒に「バイランド ペルー」というペルーの民族舞踊を踊るダンスグループを作りました。ペルーには、たくさんのダンスがあり、ダンスで喜びや哀しみを表現します。私たちは、ダンスを通じてペルーの文化の豊かさを伝え広めて行きたいと思っています。

たくさんの人に出会い、いろんな場所や外国を訪れ、自分の目標を達成できたことに対して神様に感謝しています。また、私の祖父母や親戚の故郷である沖縄を訪れることができました。祖父母は、沖縄に帰ることができず、ずいぶん前にペルーで亡くなりました。しかし、天国から、私が祖父母が生まれた故郷の村・大宜味村に行ったのを見ていてくれたと思います。祖父母が小さい子供のころ歩いた道を私も歩いてみました。そして、同じ村の風景を見ることができました。緑の木々に覆われた山々、さとうきび畑、古い家々、たくさんのことを学ぶことができました。遠く長い間離れていましたが、親戚の人たちとのつながりを更に強くすることができました。神様に感謝しています。

ラテンの人々に伝えたいメッセージは、いつも前に向いて進んでいかなければならないということです。時には、困難なこともあります、努力しなければなりません。

そして、母国の豊かさを知り、自分のルーツを忘れないことです。

私たちの子供達にスペイン語の豊かさを教えていきましょう。

【特別企画】 OG たちの活躍

【こんなところで頑張っています】

★児玉久実さん（青年海外協力隊12年度2次隊）

ミクロネシア連邦 ～ポンペイ島～より

ミクロネシア短期大学、本校合格通知を手にするまでは、何処にこの国が存在するのか？又、国の名前だとは知らなかった。しかし、あれから早くも1年近くが経ち、研修も終え、すっかりこの国に馴染んでしまった。



洗濯干し場は石の上

ミクロネシアは4つの主島を中心に4州から成る。島ごとに独特の文化があり、1つの国として捉えにくい。私が現在赴任しているポンペイ島は、中でも一番大きく、環礁島には珍しい高い山(800m弱)が存在する為、世界有数の多雨地帯で、川や滝、熱帯植物の宝庫だと言われている。かつて、日本が統治していた時代(第二次大戦前)は産業も盛んで、田畑があったらしいが、現在はもっぱら輸入に頼っている。と言うのも、ここでは、ココナッツやパンの実、バナナ、イモ類が勝手に育つ為、食べる為に苦労はいらないのだ。だから、働かず、ゆっくりと時間を過ごしている風景を目の当たりにする事も良くある。それが良い面でもあり、国の発展を遅らせる原因にもなっている。

かつて日本が統治していた時代には、学校で日本語が使われていた為、年配者の中には流暢で丁寧な日本語を話す方も居るが、その数は年々減っている。しかし、ポンペイ語の中に日本語がそのまま残って使われているものもある。例えば、「そうり(草履) さるまた、しゃもじ、しとうしゃ(自動車)」等である。現在、アメリカが全面的に支援している為、アメリカ文化が流入しているものの、彼らにとって日本はとても身近で親しみのある国のようだ。その為、日本語も身近な言語のようで、私の赴任先の College of Micronesia(この国唯一の大学機関)でも、学生は積極的？に日本語を選択してくれる。が、勉強する習慣が無い上、勉強する環境が無い(自宅に机やスペース)、また、大家族生活の為、家では手伝いに従事しているようで、勉強する事は困難なようだ。

彼らにとって、身近な国、大好きな日本人、その国から派遣されている私は、彼らに言葉と一緒に少しでも日本という国について何か伝えられたらなあ、と思っている。

今は夏休みで、比較的ゆっくりと過ごしているが、また、次の学期が始まったら、日々授業準備との格闘が始まる、その日がだんだん近づいてくる・・・

★勝島千晶さん

ボランティア「日本語教室」より

にほんごひろば岡本を巣立って一年と少しが過ぎ、この間いろんな事がありました。昨年は運良く「ODA 民間モニター」としてベトナムを訪問し、多くのことを学び、私自身変わる事が出来たと思っています。そして、今、私は故郷の尾道にある日本語教室で日本語を教えています。



私が今行っている日本語教室は、昨年秋にリニューアルし、まだまだこれからの教室です。ボランティアであるということ以外は、にほんごひろば岡本と全く違います。毎週火曜日の夜にやっているのですが、最初の30分は全員で、歌を歌ったり、ゲームをしたり、お手伝いをしてくださっているおじいちゃんに昔の遊びを学んだりしています。この時間は我々講師陣も好奇心一杯で、一体誰のための時間なんだか・・・といった感じです。毎週勉

強させていただいております。

さて肝心の授業ですが、初級・中級・上級に分かれています。クラス分けは学習者のみんなの意思を尊重し、「まずこのクラスで勉強してみて」と提案し、翌週から本人が入りたいクラスで勉強します。ですので、Gさんは全く初級なのに、「初級は人数が多いから、中級で勉強してもいいですか」なんてチャレンジをし、中級のクラスの先生を困らせているようですが、彼はとても楽しんでいるみたいです。ダジャレが大好きで、毎週のように「ちあきちゃん！」と新しく覚えたダジャレを私に披露してくれます。いつも答えに困るのですが。

私の担当している初級は、全員が20代なのでとても仲がよく、すぐに話が盛り上がってしまいます。て形の勉強をしたときは、宴会で聞いたからと「飲んで 飲んで 飲んで」といつも以上に張り切って勉強したりしています。また、彼女ができたD君のためにデート会話を勉強したいと、質問攻めにあい、顔を真っ赤にして教えた事もあります。会話練習も面白い事ばかり言って笑いが絶えないのですが、他のクラスが楽しそうにしているとみんな対抗してより元気になります。でも、私のクラスの半分の人が、住んでいる地域には日本語を勉強するところがないからと、片道30分以上もかけてやってきます。手抜きはできないんです・・・

一時間の授業の後は、ほとんど毎週みんなで近くのバーへ行きます。そこでは、平日にもかかわらず、遅くまで話をしたり、田舎の小さなバーなので、他のお客さんと仲良くなったり。私のクラスのWさんはバーに行くと日本語が急に上手になり、「ええ！こんなに話せたの？」とみんなを驚かせます。相手が女の子の話に限りますけど。

にほんごひろば岡本では、マンツーマンで勉強していましたが、今は、全く異なり、最初は戸惑いもありましたし、不安でした。しかし、にほんごひろば岡本での経験があるから、今の私があるのだと思います。相変わらずですが、周りのみなさんに助けられながら、少し離れた広島の小さな町で頑張っています。

フォトレポート

春です 花です 桜です ～にほんごひろば岡本のお花見レポート～

2001年4月7日（土）、夙川堤で「にほんごひろば岡本」のお花見交流会を行いました。

春うららかな好天気にも恵まれ、夙川の川岸は桜並木が満開でとても綺麗でした。時折吹く風に桜の花びらが散り、情緒豊かな気持ちを味わう事も出来ました。

初めてお会いする人が多く、最初は物静かな方もいらっしゃいましたが、美味しいお弁当やお酒を頂いているうちに会話も弾んでいきました。また、古家さんとアレクサンデルさん（ロシア）の歌（ロシア民謡）の指導で場も盛り上がり、あっという間に3時間が過ぎ、解散時刻になっていました。参加された人たちにとっても楽しくて良い思い出になった事と思います。



西村さんには当日朝6時から場所取りをしてくださって、本当に有り難うございました。

（吉田加代子）



↑古家、ジュリアン（仏）さん

←手前から 四本、アレクサンデル、吉田、古家さん

手前から 松見、曲淵、竹中、一瀬、原田、河崎さん→



←手前から 陳錦文(中国)、王瀟瀟(中国)、佐古田、黒岩さん

↓右から ジナ(フィリピン)、春名、市川さん ↓手前から 竹中、一瀬、原田さん ↓市川、ゴンザレス(ペルー)さん



第2回総会の報告

2001年度の第2回総会が6月23日(土)、41名中出席者28名・委任状13名の出席をもって開かれました。2000年度の活動報告、決算報告に続いて、2001年度活動方針案、予算案、規約の改正、2001年度役員改選、運営委員決定を審議し決議、承認されました。2001年度は活動内容として前年度の3本柱に加えて、*日本語教育ワークショップなどの研修会 *ニューズレターの発行 *支援者、支援者と学習者の交流会 *他の機関の研修会への参加を活発に行う方針を立てました。また、2箇所の規約改正も審議し、決議、承認されました。1. 役員：副代表を**1名→2名** 2. 連絡会：会員相互の連絡・研修の場として、**第5土曜日に連絡会を開く→必要に応じて連絡会を開く**。2001年度の役員、運営委員等詳しい内容は総会議案書をご覧ください。なお、運営委員には随時学生にも積極的に参加してもらうようお願いをしました。 **一みんなで作る「にほんごひろば岡本」**を合い言葉に、楽しく、気長に活動を続けて行こうと再度確認し合い総会を終えました。

第5回日本語教育ワークショップレポート

第2回総会に引き続き、第5回日本語教育ワークショップも行われました。講師は神戸松蔭女子学院大学の下田美津子先生、今回のテーマは「**なめらかな日本語とはどんな日本語か**」でした。また、今回のテーマに入る前に前回、先生に提出した質問、疑問にも答えていただきました。これは今回のテーマにも関連する項目が含まれていました。研修会の最後には、出席者の自己紹介を兼ねて、担当している学習者の事、現在悩んでいる事などを和やかな雰囲気の中で出しました。日本語教育ワークショップもさることながら、あまり会う機会のない支援者の人たちにも会えて、お話もでき、とても有意義な会だったと感じました。今回のワークショップの詳しい内容は教授資料として別途作成して皆様にお渡しする予定です。

〔編集後記〕 ごめんさない。紙面のリニューアルの予定でしたが、勉強不足で間に合いませんでした。きっと、次回は・・・(M・I)

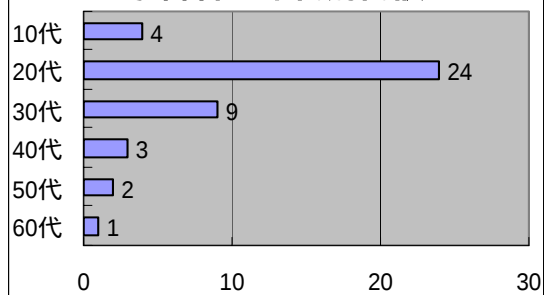
【資 料】

2001.6.30 現在

学習者の地域別内訳

地 域	国 名	人 数	合 計
東アジア	中国	10	18
	台湾	7	
	韓国	1	
西アジア	タイ	2	6
	フィリピン	3	
	カンボジア	1	
北米	USA	3	7
	カナダ	2	
	メキシコ	2	
南米	ペルー	6	7
	アルゼンチン	1	
ヨーロッパ	ロシア	1	4
	イギリス	1	
	ドイツ	1	
	フランス	1	
オセアニア	パプアニューギニア	1	1
合 計			43

学習者の年代別内訳



学習者の男女比

